

極真会館横浜港南支部 支部内試合 《型競技規定》

クラス	型（ビギナー）	型（チャレンジ）
参加対象	白帯～黄色帯（年齢・性別を問わず）	青帯以上（年齢・性別を問わず）
	※過去2年以内に同カテゴリーでの優勝経験者は出場不可 ※県大会以上の型競技で過去2年以内の入賞経験者は出場不可	
予選の型	太極3	平安2
準々決勝の型	平安2	平安4
準決勝の型	平安3	平安5
決勝の型	決勝戦は、事前に申告（出場申込書の所定欄に記入）した「申告型」で行なう。 ☆申告型は下記の中から選ぶ 【平安2～5（裏の型は不可）、安三、突きの型、撃砕大、撃砕小、最破臥竜、征遠鎮、十八、観空、五十四歩】	

※予選の型：出場選手が9名以上の場合「予選の型」でベスト8までを決める。

◎予選から準決勝までの競技方法

- ① 選手は名前が呼ばれたら入場しそれぞれの開始線に正面を向いて自然体で立つ。
- ② 主審の号令「正面に礼！」「お互いに礼！」で挨拶。「～（型の名前）用意、始め！」で両者同時に無号令で行なう。型が終わったら主審の「直れー」の号令で自然体に直り判定を待つ。
- ③ 主審の「判定を取ります、判定！」の号令で副審が総合的に上手だと判断した選手の旗をあげる。
- ④ 主審を含み3本（3人制の場合2本）以上の旗が拳がった選手の勝ちになる。
- ⑤ 本戦で旗が3本（3人制の場合2本）以上拳がらない場合は、もう一度同じ型で延長戦を行なう。
- ⑥ 延長戦でも決着がつかない場合は「級暦判定」とし、級の低い選手の勝ちとなる、級位が同じ場合は空手暦の短い選手が勝ちとなる。

◎決勝戦の競技方法

- ① 決勝戦のみ演武は白、赤の順に一人ずつ行う。
両選手は名前が呼ばれたら入場しそれぞれの開始線に自然体で立つ。
- ② 主審の「正面に礼！」「お互いに礼！」の号令でお辞儀をして「押忍！」と挨拶。
その後、赤の選手は赤コーナー側場外で試合場に向いて座る。
- ③ 白の選手の演武が終わったら白の選手は同様に白コーナー側場外で試合場に向いて座る。
- ④ 続いて赤の選手が演武を行う、赤の演武が終わったら両者開始線に立ち判定を待つ。
- ⑤ 引分けの場合、決勝戦に限り延長1回目でどちらかに旗があがり優勝者が決定する。

【審判の判定基準】

型の難易度にかかわらず下記の要素を総合的に判断して判定される。

《加点の対象となる例》

- ◎ 技の正確性・・・型の動きに忠実な動作。正拳・手刀・掌底・中足・足刀などの部位を正しく使い正確な手足の運びをしている
- ◎ 気合い・気迫・・・大きな気合いを出している、技に気迫が感じられる
- ◎ 立ち方・運足・・・正しい立ち方と足の運び方、すり足、腰が落ちている
- ◎ 力の強弱・・・余分な所に力が入らず且つ力強さがある
- ◎ 技の緩急・・・遅く動くべき所は遅く、早く動くべき所は素早く行う
- ◎ 全身を使う・・・全身を有効に使い、下半身と上半身の調和が取れている
- ◎ 息吹・呼吸・・・正しい息吹・呼吸、技と呼吸の調和が取れている
- ◎ 目線・・・型で想定された相手への目配りをし、臨場感を表現している
- ◎ 正しい姿勢・・・体の軸が安定し、動いてもその安定が保たれる

《減点の対象となる例》

- ▲ 気合い・気迫・覇気がない
- ▲ 不正確な技（引き手、拳の握りがあまい）
- ▲ 手先・足先だけの動き
- ▲ 二度踏み（足を運ぶ始めの動作で無駄な踏み出しがあること）
- ▲ 型の順番をなぞるだけの動き
- ▲ 見当違いな表現・大げさな表現
- ▲ 腰が高い・片足動作でのふらつき
- ▲ 目線が定まらない など・・・